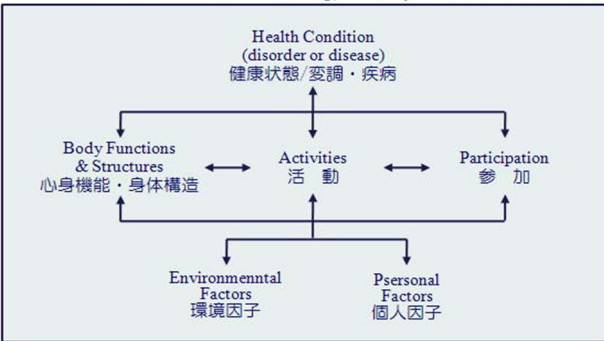


障がい福祉サービスに欠かせないアセスメント

共通言語になりうる ICF と WHODAS2.0

ICF (国際生活機能分類)

International Classification of Functioning, Disability and Health ; WHO 2001



<https://hiroshi-yamane.net/base/ICF.html>

★用語の説明★

アセスメント⇒その人のことを知る作業です。

ICF ⇒その人の健康状態を確認するツール

WHODAS2.0⇒ICFの活動と参加の要素で、使いやすくしたアセスメント

ICFのアセスメント

個人の生活機能や障がい及び健康について把握できる。生活機能は、『心身機能・身体構造』と『活動』と『参加』の3要素により包括されている。また生活機能の外的影響としての『環境因子』、内的因子の『個人因子』の2要素があり、いずれかの要素に介入すると、複数の要素を変化させる可能性がある。



YES!

例えば、環境因子で制度として生活介護事業所の活用をすることで、参加では事業所内の取り組みで様々な社会とつながる、コミュニケーションなど活動の幅が広がる、心身機能の向上につながる、といった感じですね。

YES×2!

例えば、利用者さんは何が出来ているか知ることで、その強みを活かし、他の要素に良い影響を与えることも出来ます。例えば、体力がある、コミュニケーションが取れることで、人と関わる仕事が出来るともかもしれません。

そこが課題なんです。

ICFは概念的枠組みこそ、素晴らしいのですが、WHO(世界保健機構)も、ICFを日常的に使用することは実用的でないとして、新たにWHODAS2.0(フーズ)を開発しました。



上の文章は、つまり良い影響は様々な生活機能を良くしてくれる。ということでしょうか。



これは、利用者さんの関心や強みも活かさせますね!



支援員さんはそのよい影響が何かを気づき、その環境づくりが仕事ですね!でもこれって、どのように使われているんですか。



参考文献: WHO 2002 「ICF:国際生活機能分類」
日本レジリエンズ医学研究所 2015
「健康および障害評価 WHO 障害評価面接基準マニュアル」

WHODAS2.0

WHODAS2.0のアセスメント

WHOが開発した障がい評価シート。ICFの活動と参加の構成要素から6つの領域で構成されている。健康と障がいについて文化的影響を除いて測定する標準ツールとされている。福祉サービスを展開するうえで標準的なツールになる可能性がある。

WHODAS2.0	36項目
理解と意思の疎通	6項目
運動	5項目
自己管理	4項目
人付き合い	5項目
日常の活動	8項目
社会参加	8項目



WHODAS2.0は、36項目と12項目版などにも分かれています。簡易的に使用しやすくなっています。

統一された指標があると、ICFで言われていた共通言語がさらに進むことが期待されています。また障がいの見える化になるという見解もあります。

良い指摘ですね。

これは使う人によって、判断基準が異なってしまう可能性があり、使用するには、それぞれの事業所に合ったマニュアル作りが必要という先行研究もあります。

項目数が少なくないなら、時間も関わらないですね。でもICFのような課題はないのですか。



マニュアルが整備されて、使えるようになると、個別支援計画やその他、色々な支援の視点に使えるそうですね!それに支援の効果も見えますね!



WHO-DAS2.0 6領域 36項目	
領域1 理解と意思の疎通	D1.1 10分間何を行うことに集中する D1.2 重要事項を行うことを覚えておく D1.3 日常生活上において問題の解決方法を発見する D1.4 新しい課題を学ぶ(例えば、新しい場所への行き方を学ぶ) D1.5 人々が言っていることが何を普通に通じるか D1.6 会話をはじめて、継続できますか
領域2 運動能力	D2.1 30分程度の長い時間たていられますか D2.2 腰掛けた状態から立ち上がれますか D2.3 あなたの車の中で移動しますか D2.4 家の外に出る D2.5 1キロメートルくらい(またはこれ相当)の距離を歩きますか
領域3 自己管理	D3.1 全身を洗う D3.2 自分で服を着る D3.3 食事を食べる D3.4 数日間1人で過ごす
領域4 人付き合い	D4.1 知らない人とのやり取り D4.2 友人関係を維持する D4.3 親しい人々と交流する D4.4 新しい友人を作る D4.5 親密なスキンシップ

領域5 日常の活動	D5.1 自分の受け持つ家事を行う D5.2 今、あなたにとって最も重要な家事をうまくやっていますか D5.3 あなたに必要なすべての家事を済ませることは出来ますか D5.4 必要に応じて出来るだけ早く家事を済ませることが出来ますか D5.5 仕事または学校での日々の活動を行う D5.6 あなたにとって、最も重要な仕事または学校の課題を済ませましたか D5.7 あなたが必要な仕事または学校でのすべての仕事を済ませましたか D5.8 必要に応じて、行うべき仕事出来るだけ早く済ませましたか
領域6 社会参加	D6.1 他人と同じ方法で地域の活動に参加するのに、どれだけ問題がありましたか D6.2 あなたの身の回りに生じた障害(バリア)、妨げによって、どれだけ問題を抱えましたか D6.3 他人の態度と行為によって、あなたの尊厳が傷つけられたことが、どれだけありましたか D6.4 健康状態またはその改善のために、どれだけ時間を費やしましたか D6.5 あなたの健康状態によって、どのくらい感情に影響を受けましたか D6.6 あなたの健康状態は、あなたやあなたの家族にどれくらい経済的な損失をもたらしましたか D6.7 あなたの健康上の問題によって、家族がどのくらい問題を抱えましたか D6.8 自分で、リラックスや楽しみをしようとしたときに、どれだけ問題がありましたか